

丸森町の在来技術を活用した小規模農家の 食糧の安定利用強化プロジェクト（2016年～2019年）



宮城県:中山間地域の知恵と経験をザンビアへ!

- **実施団体:**
宮城県丸森町、耕野振興会
- **相手国:**
ザンビア共和国（ルサカ州農業事務所）
- **協力内容:**
 - ・ 農村開発
- **団体のこれまでの取り組み:**
 - ・ 丸森町は、農業生産条件が不利な中山間地域において「①気候風土に適した農作物の栽培②農産物の加工③地域協働・助け合い」を歴史的に育み、創意工夫の積み重ねによって今日まで守り続けてきた。
 - ・ 丸森町耕野地区の耕野振興会(住民自治組織)は、少子高齢化、人口減少、担い手不足などの課題に強い危機感を持ち、特徴のある地域づくりに取り組んでいる。
 - ・ その一環として、ザンビアとの国際交流経験を活かし、草の根技術協力事業に取り組んだ。



農業研修でトウガラシの収穫

現地の課題と事業成果

- 課題** 単一栽培による農業生産
主食であるトウモロコシや一部の野菜品種に偏った農業生産が行われており、気候変動の農業用水への影響や病虫害による被害を受けやすくなるなど、農産物の不作リスクが高い。
- 成果** プロジェクト対象地のG村では、6種類の自給・換金作物の普及により栽培品目数が1.3から4.3に増加し、農作物の多様化は食料確保の安定、栄養の改善、農業収入の向上（2.1倍）にも貢献した。

丸森への波及効果



ザンビアとの国際協力による 特徴ある地域づくり

- ・ ザンビアとの技術協力や国際交流は、丸森町の伝統的な価値観、地域の良さを再発見する契機となり、ユニークな地域おこしは地域内外との交流を促進した。
- ・ 丸森町長が在日ザンビア大使館での独立記念式典に招待され、来日したルング大統領と面会するなど交流が深まった。また、丸森町は東京オリンピックパラリンピックでザンビアのホストタウンに決定した。
- ・ 丸森町が台風による被害を受けた際に、在京ザンビア大使のお見舞いも行われた。